

高萩市立義務教育学校施設整備 候補地評価

資料 2

	候補地 1 現高萩小用地	候補地 2 安良川やすらぎドーム西側	候補地 3 後谷地区	候補地 4 瀧神社周辺	評価基準	
安全・安心な学校環境の維持						評価
災害に対し安全であること	◎	△	△	◎	高台にあり、津波・洪水による被災の危険性がほぼない。	◎
					津波・大雨浸水の危険性はないが、地盤がやや脆弱と想定され地盤改良等対策の必要がある。	○
					やや低地のため大雨浸水の可能性があるため盛土による敷地造成が必要となる。地盤がやや脆弱と想定され地盤改良の必要がある。	△
地域住民の指定避難所としての機能確保	◎	○	○	◎	地域住民が安全に避難できるスペースと避難ルートが確保できる。	◎
					地域住民が安全に避難できるスペースは確保できるが、安全な避難ルートの確保が難しい。	○
					地域住民が安全に避難できるスペース、安全な避難ルートの確保が難しい。	△
周辺交通・進入路動線	○	△	△	△	幹線道路・主要道路等に近接しており、敷地までの安全な進入路も確保できる。	◎
					敷地までの安全な進入路を確保するため、既存道路の拡幅などの整備が必要。	○
					敷地までの安全な進入路を確保するため、新たな道路整備が必要。	△
市の都市計画・立地適正化計画との整合性						評価
都市計画・用途地域との整合	◎	○	△	○	学校整備に適した都市計画・用途地域である。	◎
					学校整備が可能な都市計画・用途地域であるが、体育館などが高さ制限に抵触するため、建築許可や都市計画の見直しが必要となる。	○
					農用地区域に位置し、学校施設整備には、農振地域の除外や農地転用が必要となる。	△
立地適正化計画・その他の計画との整合（保護者や地域のひとから理解が得やすい）	◎	○	△	○	候補地の立地が都市機能誘導区域に該当する。地域拠点である既存の学校施設であり保護者や地域住民の理解を得やすい。	◎
					候補地の立地が都市機能誘導区域に近接し、既存の通学学区と整合している。最長通学距離3km以内。	○
					候補地の立地が都市機能誘導区域に近接し、既存の通学学区をまたぐ立地となる。最長通学距離は3km超。	△
自然環境への影響	◎	○	○	△	既存の学校用地を使用するため、環境や景観への影響が少ない。	◎
					開発を伴うため、環境や景観にやや影響がある。	○
					大規模な開発を伴い、自然環境及び景観への影響がある。	△

機能的かつ経済的な学校施設						評価
学びの環境に対応する合理的で効果的な施設配置ができる敷地であること	○	◎	◎	○	十分な敷地面積が確保でき、安全で利便性の高い学校施設の配置が可能。	◎
					敷地面積が確保できるが、安全で利便性の高い学校施設の配置に工夫が必要。	○
					敷地面積が確保でき、安全で利便性の高い学校施設の配置が困難。	△
市有施設との連携・活用の可能性	◎	○	○	○	近接する市有施設の利活用が可能。200m圏内	◎
					市有施設の利活用が可能。500m圏内	○
					市有施設の利活用が可能。1 k m圏内	△
既存建物取壊し、仮設校舎費用	△	◎	◎	◎	整備時に既存建物取壊し・仮設校舎の必要が無い。	◎
					整備時に既存建物取壊し・仮設校舎の費用が中程度かかる見込み。	○
					整備時に既存建物取壊し・仮設校舎に多大な費用が必要となる。	△
土地の取得、造成及びインフラ整備等、学校施設整備費用以外の費用を極力抑えられること	◎	△	△	△	土地の取得、造成及びインフラ整備の費用が極力抑えられる見込み。	◎
					土地の取得、造成及びインフラ整備の費用が中程度かかる見込み。	○
					土地の取得、造成等びインフラ整備に多大な費用がかかる見込み。	△
◎の数	7	2	2	3		
○の数	2	5	3	4		
△の数	1	3	5	3		
合 計	42	28	24	30	◎ 5 点、○ 3 点、△ 1 点とした場合の合計点	
評価（順位）	1	3	4	2		